

常磐排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画 (四日市市)

項目	内容・施策等
選定理由	<p>常磐排水区は、平成12年の東海豪雨や近年の局地的な集中豪雨でも、浸水被害が多く発生しているため、浸水被害の軽減を図る必要がある。</p> <p>このようなことから、新たにまつの雨水2号幹線の整備を行う。</p> <p>まつの雨水2号幹線の接続先である阿瀬知雨水1号幹線は、末端にポンプ場を建設して排水する計画であるが、現在はポンプ場の建設がされていないことから、暫定的に貯留管として活用している。このため、接続するまつの雨水2号幹線についても暫定貯留管として運用する。なお、常磐排水区は過去10年間に50戸以上の浸水実績があり、常磐排水区における床上・床下浸水戸数は以下のとおりである。</p> <p>【常磐排水区】床上浸水戸数：9戸　　床下浸水戸数：69戸</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画におけるハード対象降雨：75.1mm/h ・目標とする理由：昭和62年4月三重県降雨強度式を採用：75.1mm/h ・ハード整備による整備水準の目標：75.1mm/h（10年確率降雨） <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点 : 常磐排水区に存在する高齢者・障害者等要配慮者関連施設2箇所の床上浸水を防止する。 ii) 都市機能の確保の観点 : 機能保全水深を20cmと設定する。 iii) 個人財産の保護の観点 : 家屋の床上浸水を防止する。 iv) その他 : 特になし <p>③ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 ii) ソフト対策及び自助 <p>施設整備により75.1mm/h（10年確率降雨）において浸水被害を防止する。</p> <p>施設整備で対象とする降雨量を上回る想定最大降雨147mm/hにおいて、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、水路・雨水ます等排水施設の事前点検・清掃、開発行為に伴う浸透枠・浸透性舗装・盛土・調整池の検討等の指導を行うなど、市街地部の浸水深を機能保全水深20cmにとどめ、被害をできるだけ小さくする。</p>

(様式1)

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> 有 (平成 年 月 日策定済み) 策定予定 (令和5年度策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 排除面積 31.3ha 幹線管渠の整備 管渠延長 303m
			下水道管理者以外	—
	ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> 内水ハザードマップの作成・公表における情報提供 水路・雨水ます等排水施設の事前点検・清掃 開発行為に伴う浸透枠・浸透性舗装・盛土・調整池の検討等の指導 緊急用土のうの配備 局部改良（簡易的な対策により、雨水排水対策効果が見込める整備） 	
			下水道管理者以外	—
	自助	ハード対策		—
		ソフト対策		—

年度計画（百万円）

名称	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
移転補償	32	—	—	32
雨水管渠	—	400	400	800
計	32	400	400	832

項目	内容・施策等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>浸水被害の軽減便益年平均被害軽減期待額：235 百万円/年が削減される。</p> <p>B/C : 6.9</p> <p><その他の定量的な効果></p> <p>都市浸水対策達成率：45%→46%</p>
その他	「四日市市雨水管理総合計画」を策定し、重点対策エリアに位置付け、優先的に取り組むべきエリアとして計画策定を行っている。

【位置図】常磐排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画(四日市市)

